

脾胃機能を改善して 流産を克服した症例

東京都誠心堂薬局薬剤師 石川 真

東京都誠心堂薬局中医学アドバイザー 司馬 張

はじめに

日本の多くの方は、生冷物を食べ過ぎて脾胃虚寒が多い。脾胃虚寒の多くは、脾胃気虚が一步進展して生じる。脾胃気虚は主に脾胃の機能が低下したことによって現れる病証である。脾胃気虚になると脾胃の水穀運化機能が失調して、気血津液の化生が不足し、全身の栄養不良に陥る¹⁾。また水分代謝にも影響を及ぼし、痰湿を生じ、水太り体質になりやすくなり、長期にわたっては腎に波及する。

妊娠のためには、元気な体質を作らないと胎児にも影響を与える。今回は、脾胃虚寒によると考えられた流産を克服した症例を提示する。

症 例

患 者：34歳 女性 157cm 63kg 会社員 H22年1月17日初診。

主 訴：不育症（流産歴2回）。

病 歴：32歳で結婚。結婚後妊娠を2回するも、大抵6週目ごろ心拍の確認ができず流産した。2回目の流産はH22のお正月ごろだった。

子供のころから胃が弱く、油ものは苦手だった。それ以来、おかゆやうどんのような軟らかいものを少ししか食べられなくなっていた。

現 症：疲れやすい、立ちくらみ、めまい、胃痛がある。顔色は黄色っぽく、水太りした体格である。

舌淡、苔薄白。

基礎体温は全体的に低い。低温期は36℃を切る場合が多い。1月1日に掻爬手術を受けて、まだ茶色いおりものがある。本日周期の17日目。

弁 証：脾胃虚寒 腎陽不足 衝任失養

治 則：健脾益气和胃

処 方：香砂養胃湯+補中益氣湯 14日分 輝精水 0-0-20ml

方 義：「人以食為本」脾胃の機能が良くないと、身体の全身に栄養がいきわたらず、妊娠し易い体質になりえない。まず胃腸の不調を改善してから

周期療法などの生薬に変えて服用させていく。輝精水は、プラセンタを主成分として、他に枸杞子、決明子、玫瑰花、菝葜、竜眼肉、薏苡仁、黄耆を配合した健康食品である。プラセンタは「紫河車」として用いられる漢方薬の一種で、補腎作用に優れているため、初回から妊娠中も漢方薬と併用した。

第2診 (2010年1月31日)

胃の調子が良くなった。食事も正常に食べられた。茶色のおりものも止まった。最近白目のはれるような感じがあった。

処方：香砂養胃湯＋補中益気湯

方義：胃腸が弱いという体質に対して、続けて治療の必要あり。

第3診 省略

第4診 (2010年3月7日)

生理 3/7～。体調がずいぶんよくなり、水太り体質にともなう体重の増加も止まった。めまい、立ちくらみが減った。冷えがあり、基礎体温はまだ低い。36℃切れが時々ある。

処方：十全大補湯＋香砂養胃湯

方義：基礎体温が低い（36℃を切るレベル）と、卵巣機能に影響があると考えられる。中医学的考えでは陽虚で、胞宮虚寒しやすく妊娠しにくい体質になる。

生理周期に合わせて補腎温陽の生薬をプラスする。

第5診 (2010年3月28日)

基礎体温が全体的に上がった。36℃切れがなくなった。冷え改善。今日高温期7日目。

今月はタイミング（－）。

処方：十全大補湯＋温経湯

方義：現在、脾胃吸収機能が強くなったので、補腎温経散寒の処方に変えて妊娠しやすい体質を作る。

第6診 第7診 第8診 省略

第9診 (2010年6月5日)

生理 5/29～6/3。生理痛がある。鮮血で塊がない。仕事の疲れとストレスがある。耳鳴り（＋）。今日低温期8日目。

処方：加味逍遥散合四物湯＋温経湯

方義：ストレスあるため、加味逍遥散合四物湯に変更した。

第10診 (2010年6月19日)

基礎体温がきれいになった。低温期と高温期がはっきりした。情緒面も改善した。今日高温期7日目。

処 方：加味逍遙散合四物湯＋十全大補湯

第11診 第12診 省略

第13診 (2010年7月31日)

今日高温期21日目。自己チェックで妊娠反応陽性。

処 方：十全大補湯＋芎藭膠艾湯

方 義：『金匱要略』には「婦人漏下の者あり。半産の後より続き下血し都て絶えざる者あり，妊娠し下血する者あり，もし妊娠し腹中痛むは，胞阻たり，膠艾湯これを主る」とある。

衝任虚損による漏下（崩漏），流早産（半産）ののち下血，衝任虚損で胞育が阻滯されたための妊娠中の腹痛・下血など流産の前兆に，芎藭膠艾湯を使用している²⁾。

以上の処方を妊娠16週まで続けて服用した。

2011年4月，女の子が無事出産された。

まとめ

流産とは，妊娠反応が陽性で子宮内に胎児または胎嚢が確認された後，その成長が停止した状態，つまり胎児が死亡した状態をいう。また習慣性流産とは，自然流産や早産を3回以上繰り返す場合で，その約50%は原因不明である³⁾。

この方は流産2回であった。自然流産が2回連続することを反復流産という。

中医学的には，早期流産は気血不足，陽虚タイプに多く見られる。この方は脾胃虚寒で，気血不足になり腎陽虚にも影響を受けている。そのような体質で妊娠したとき，母体の栄養を赤ちゃんに送る力が弱まり，胎児が子宮で育たない。妊娠したい方は，まず妊娠しやすい体作りを行ったほうが良いと考える。

参考文献

- 1) 高金亮監修：中医基本用語辞典，東洋学術出版社，千葉，2006，538-539
- 2) 神戸中医学研究会編著：方剂学，医歯薬出版株式会社，東京，1992，386
- 3) 長崎中医薬研究会：子寶チャート理論編，p14